

受理番号	受理年月日	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	紹介議員氏名	付 託 委員会名	議決結果
元 年 第 1 1 号	1. 1 2. 4	<p>教育格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める 請願</p> <p>子どもたち一人ひとりに確かな基礎学力をつけ、豊かな人間関係を育むためには、何よりもゆとりある学習環境、教育条件の整備が必要である。とりわけ、子どもの発達を保障するためには「少人数学級」の実施が緊急の課題となっている。</p> <p>この観点から、これまで各都道府県は、様々な形で独自の施策を実施してきた。本県においても、2018 年度から茨城方式の 35 人学級が中学 3 年生にまで拡大された。多くの県民は高等学校までの少人数学級の拡大を期待している。</p> <p>社会に広がる経済格差が、子どもの生活や学習に大きな影響をあたえ、子どもの成長と将来に大きな影を落としている。家庭の経済状況や住んでいる地域によって、子どもの進路が狭まることのないよう、更なる県立高等学校の統廃合や入学時および進級時における学級削減を取りやめ、過疎地域の高校や定員割れした高校、フレックススクール、定時制高校の先行的少人数学級を実現すること。</p> <p>全ての子どもが安心して学校生活をおくれるよう、ゆきとどいた教育条件の整備のために教育予算を大幅に増やすこと。</p> <p>【請願事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員を増やし、学校予算を増額すること。 2 小学校、中学校、高等学校の 30 人以下学級を早期に実現すること。 3 小学校、中学校、高等学校の統廃合を行わないこと。 4 教育費の父母負担軽減、私学助成を増額するなど、教育予算を大幅に増やすこと。 5 夜間定時制高校、フレックススクールの教育条件（教員の加配、学校予算の増額など）を充実すること。 	<p>民主教育をすすめる茨城県民会議 代表 神林 昇 ほか 1,483 人</p>	<p>山 中 たい子 江 尻 加 那 玉 造 順 一</p>	<p>文教警察</p>	<p>不採択</p>